

Z-74-A 簿記論〔第一問〕－解答－

各1点

①	800	②	547
③	357	④	え
⑤	お	⑥	け
⑦	お	⑧	44
⑨	し	⑩	1,000
⑪	1,130	⑫	1,200
⑬	597	⑭	2,390
⑮	610	⑯	1,084
⑰	1,814	⑱	き
⑲	1,400	㉔	さ
㉑	け	㉒	こ
㉓	1,400	㉕	さ
㉖	△1,400		

Z-74-A 簿記論〔第二問〕－解 答－

問 1

(単位：円)

記 号		金 額		
①	さ	②	5,000,000	①②で ①
③	あ	④	26,076,830	③④で ①
⑤	か	⑥	30,000,000	⑤⑥で ①
⑦	た	⑧	1,076,830	⑦⑧で ①
⑨	① に	⑩	① 5,215,366	
⑪	① す			
⑫	① た	⑬	① 215,366	
⑭	① に			
		⑮	① 102,587,826	
⑯	① つ	⑰	① 274,543	
		⑱	① 57,035,130	
		⑲	① 7,400,000	
⑳	① に	㉑	① 1,080,000	
㉒	① ね	㉓	① 79,964	
		㉔	① 2,470,882	
		㉕	① 21,459,199	

問 2

(単位：円)

(1)

① 450,000

(単位：円)

(2)

記 号		金 額		
⑳	く	㉑	200,000	⑳㉑で ①
㉒	し	㉓	16,000	㉒㉓で ①
㉔	け	㉕	216,000	㉔～㉕で ①
㉖	なし	㉗	なし	㉖㉗で ①

(注) 「①②」と「③④」、「⑤⑥」と「⑦⑧」、「⑯⑰」と「㉒㉓」はいずれも順不同

Z-74-A 簿記論〔第三問〕一解 答一

(単位：円)

番号	金額	番号	金額
①	② 1,484,000	⑳	② 16,310,000
②	① 14,248,400	㉑	② 2,994,700
③	② 52,970,000	㉒	① 10,882,973
④	① 1,552,000	㉓	① 3,456,000
⑤	① 30,000	㉔	① 2,299,443
⑥	② 630,100	㉕	① 154,500
⑦	① 8,872,000	㉖	① 607,500
⑧	① 1,912,440	㉗	① 1,157,675
⑨	② 8,598,000	㉘	① 559,800
⑩	① 80,000	㉙	① 18,424,000
⑪	② 2,560,000	㉚	① 1,160,000
⑫	① 1,564,800	㉛	① 1,555,000
⑬	① 42,354,200	㉜	① 60,537,080
⑭	① 757,043	㉝	② 217,000
⑮	① 193,000	㉞	② 180,000
⑯	① 78,000	㉟	① 100,000
⑰	② 1,750,000	㊱	① 810,000
⑱	① 982,520	㊲	① 75,000
㉑	① 1,330,000	㊳	① 2,488,200
㉒	① 45,430,000	㊴	① 751,260

簿記論【総評】

〔はじめに〕

第一問は総合的に難度が高く得点が伸びない問題、第三問は僅かながら例年よりは取り組みやすい問題、といった印象であり、結果的に全体としては分量・難易度とも簿記論の標準レベルといえる内容であった。取捨選択の判断も比較的容易であり、第二問でしっかり得点を伸ばしつつ、第一問では最低限の得点を確保し、第三問でバランスよく得点を積み上げる、といった戦略を取れたのではないかと期待したい。合格ラインも、簿記論としては例年並みか、やや高い水準になると予想される。

〔第一問〕

退職給付会計をメインテーマとして、一部、連結包括利益計算書（その他有価証券評価差額金の組替調整）についても問うものであった。資料の読み取りに時間がかかる上、給付算定式基準等による退職給付債務の計算といった難度の高い内容が含まれており、一般的な受験生にとって高得点は期待できないと思われる。勘定科目の部分を中心に、5～7カ所程度を正答できていればよいであろう。

予想ボーダーライン：5点～7点

〔第二問〕

問1は資産除去債務、リース取引など有形固定資産に関する会計処理、問2は自己新株予約権について問うものであった。必要な計算量がやや多いものの、いずれも直前答練で出題したレベルの範囲内であり、高得点を期待できる内容であった。リース取引に係る仕訳の部分（①～⑭）を確実に取り、それ以降の部分でもケアレス・ミスをしっかり防ぎながら、できる限り得点を積み上げられたかがポイントとなる。

予想ボーダーライン：16点～18点

〔第三問〕

商品販売業を営む企業に関する決算整理型の総合問題であり、分量は多かったものの、個々の処理にさほど難解なものはなく、例年と比較して相対的に取り組みやすい問題であった。しっかり時間を確保し落ち着いて解答を進めていけたならば、実力が相応に反映される結果となるはずである。現金と当座預金の部分に時間をかけ過ぎず、以降の資料もできる限り万遍なく手を付け、20～22カ所程度を正答できていればよいであろう。

予想ボーダーライン（〔第三問〕）：28点～32点

〔合格ライン〕

簿記論の予想合格ボーダーライン：51点～55点（LECの想定する配点基準に基づく）

配点基準が変われば合格ラインも上下するので、おおよその目安として合格ラインを見るようにしていただきたい。